

てございます。なお、板金科や左官科などはもし希望者がいれば開設は可能というふうなことでございました。

なお、職業訓練校の活用につきましては、関係機関とご相談しながら進めていきたいというふうに考えてございます。以上でございます。

○蒲生光男委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 建設関係も長井市の重要な地場産業ですし、まず職人さんに定年はないんですね。65歳や70歳でもずっと働けるすばらしい仕事ですので、そういった魅力などいろいろPRして、まず建設参事、産業参事なども連携されて取り組んでいただきたいということを申し上げて質問を終わります。答弁ありがとうございました。

平 進介委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 次に、順位3番、議席番号5番、平 進介委員。

なお、平委員にお願いしますが、答弁者が数多くいらっしゃいますので、誰にということをはっきりわかるようにご指名をお願いします。

○5番 平 進介委員 初めての総括質疑でありますので、よろしく願いいたします。

質問項目は大きく3点であります。このたびの補正にあります商工費の地場産業振興センター支援事業、土木費の地方道路整備事業並びに消防費の防災対策事業に関連して質疑を行ってまいりたいというふうに思います。

質問の数が結構ありますので、2番と3番の順番を前後して進めてまいりたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

初めに、台風18号による記録的豪雨災害からであります。この件に関しましては午前中の浅

野委員も質疑されておりますので、できるだけ重複しないように進めていきたいというふうに思います。

さて、台風18号、台風17号の影響によります大雨では、関東や東北では今月10日以降も記録的な豪雨が続き、茨城県を初め栃木県、宮城県など各地に甚大な被害が発生いたしました。被災された方々に心からお見舞いを申し上げたいというふうに思います。特に被害の大きかった茨城県常総市を中心に話をさせていただいて、質問を進めてまいりたいというふうに思います。

気象庁は10日未明、茨城県に特別警報を出し、常総市では鬼怒川の堤防が決壊し、大きな被害が発生した。国土交通省によりますと、堤防の決壊は10日の昼、幅は140メートルにわたり、鬼怒川の堤防決壊は昭和24年以来66年ぶり、浸水面積は常総市の総面積の約半分、40平方キロになった。車ごと流された方、行方不明の方など数多くおられ、また家を流された方を初め床上浸水、床下浸水など未曾有の大災害となりました。

自然災害は時として私たちの想定を超えて猛威を振るうということではさきの東日本大震災を経験したわけでありますが、それでもその想定を超えるところも考慮しながら対応しなければならないというふうに考えます。そうしたことを踏まえまして、長井市における対応についてお聞きしてまいりたいというふうに思います。

国土交通省は、平成24年7月の九州北部豪雨を受けまして、全国にある国管理の堤防を総点検したということであります。強度不足などのため対策が必要と判断した全国2,159キロメートルの中にこのたび決壊した鬼怒川の堤防もあったと言われております。今回の鬼怒川の堤防破壊の原因は、越水破堤、または越水破壊ではないかと言われております。増水した川の水が堤防を越えてあふれ、外側、市街地側の土手を削り取って決壊に至るという現象のようであり

ます。

ここで質問であります、国交省の点検作業の中で、県内を流れる最上川などが強度不足のため対策が必要とされている箇所はあるのか、長井市付近ではあるのかという点について建設課長にお聞きをいたします。

○蒲生光男委員長 青木邦博建設課長。

○青木邦博建設課長 今回の東日本豪雨の鬼怒川の決壊につきましては、平委員がおっしゃいますように、越水破堤と言われております。河川の水位が堤防を越したということでございます。

長井市を流れる最上川につきましては、羽越水害の対応として整備を進められてきました。白川合流付近や森築堤が完了し、無堤地帯は解消されております。

越水破堤は計画流量の問題ということもありまして、昨年の梅雨前線豪雨時の最上川の小出観測所のデータによりますと、累加雨量が238ミリメートル、計画高水位14.399メートルに對しまして当時の最高水位が12.61メートルでございました。当市を流れる最上川につきましては、堤防の強度不足ということではございませんで、さらなる堤防の強化といたしまして、腹づけ盛り土やのり面勾配の緩和という対策を順次進めているというところでございます。以上です。

○蒲生光男委員長 5番、平 進介委員。

○5番 平 進介委員 しっかりと工事されているというふうなところでは大変ありがたいというふうに思っております。ただ、堤防決壊のメカニズムの中には、堤防を越えてくるだけでなく堤防内を水が浸透して破壊するものなどさまざまあるということでもありますので、安心は禁物かなというふうにも思うところでもあります。

それで、今ありましたとおり、長井市は昭和42年の羽越水害では甚大な被害を受けたところでもあります。市内の大半が水につきり、市役所付近も床上・床下浸水の地域というふうになり

ました。

今回災害対策本部となりました常総市役所は鬼怒川の決壊場所付近から直線距離で9キロメートル以上離れております。3階建ての庁舎の1階への浸水については、10日の夜から徐々に水位が上昇して、職員は2階以上で業務を続けたということでもあります。翌11日の明け方には地面から1.5メートルの高さにある電気設備が水没し停電、電話が使えなくなった。市民は困っているのに連絡がとれないと困惑するという記事であります。堤防決壊から約9時間で災害対策本部機能が麻痺し始めたということのようでもあります。

長井市においては最上川からの水害だけでなく、山に降った大雨による洪水、土砂災害の可能性も高い地域であります。特に西山の場合は長井ダムが整備されていることにより、平野地区の洪水等による被害は他の地区と比較して格段に少ない状況にあるというふうに思います。水防活動においても平野地区である第4分団におかれましては、消防本部に近いということもありますが、土のうづくりを主に活動していただいているというふうな状況であります。それほど長井ダムのおかげによって安全性が確保されているというあかしだというふうに考えます。

一方、西根地区は急峻な山からの鉄砲水で各河川が一気に氾濫するというところであります。特にここ数年来のナラ枯れが進んだことによりまして、西山の山肌、地肌があらわれてきております。以前計画されました葉山大規模林道の工事については、中止になりましたが、そのときの議会での遠藤 允議員の発言を思い出します。西山を踏査した専門家の話として、西山は主に花崗岩でできており、地中にあるうちは岩の固まりとして強さを発揮するが、地表にあらわれると風化が早まり、もろくなりやすいというものであります。

現在の西山はナラ枯れの影響で特に雪解けの

春先に小規模な雪崩があちこちで見られる状況になっております。まさに地表があちこちでさらされ始めているというふうな状況になっております。

こうしたことなどにより、白兔の大沢川や勸進代の田沢川が昨年、一昨年の豪雨により大きな被害を受けました。置賜西部広域農道が市に移管されたわけではありますが、その道路も特に勸進代、白兔の部分で冠水し、大量の砂が道路に蓄積し、通行にも大きな障害となったものがあります。

そこで質問させていただきますが、そのときのものかわかりませんが、現在、白兔の大沢川では葉山森林公園の脇の橋がえぐられた状態になっているというふうに見てまいりました。そうしたことも含めて大沢川の砂防ダムや治山等の整備対策が必要でないかというふうに考えるところでありますが、建設課長並びに農林課長にそれぞれにお聞きをいたします。

○蒲生光男委員長 青木邦博建設課長。

○青木邦博建設課長 それでは、私のほうから、砂防ダムのほうについてお答え申し上げます。

大沢川につきましては、西置賜河川砂防課で葉山森林公園周辺に河川砂防事業で3カ所の砂防堰堤を順次整備することとしております。ことしの7月に白兔集会所センターにおいて既に事業説明会が開催されております。今年度は地区財産管理区部分の丈量測量を実施し、用地買収を行う予定と聞いております。以上です。

○蒲生光男委員長 遠藤敏広農林課長。

○遠藤敏広農林課長 私からは、白兔の大沢川の治山対策についてお答えいたします。

2年連続となります平成25年7月及び26年7月の豪雨災害では、市内の河川や林道、農地、農業用施設におきましても大きな被害を受けたため、地元や市では山形県に対しまして災害復旧の陳情等を行うとともに、その復旧に取り組んできたところでございます。

白兔葉山森林公園周辺におきましても大沢川沿いの山腹の崩壊、林道一の俣線の流出等の被害が発生しました。現在、大沢川上流の獅子が沢におきまして、山形県による治山堰堤が今のところ2基計画されておりまして、そのうち1基が工事に着手したところでありまして、1基分の完成予定は28年2月、来年2月となっているとお聞きしてるところでございます。堰堤完成によりまして被害防止に多大な貢献がなされるものと期待しているところでございます。以上でございます。

○蒲生光男委員長 5番、平 進介委員。

○5番 平 進介委員 今の農林課長のほうのお話の中で、2基のうちの1基が着手して来年の2月完成というふうなことのようにありますが、もう1基分の予定というのは今現在の情報としてわかりますか。

○蒲生光男委員長 遠藤敏広農林課長。

○遠藤敏広農林課長 今のところ、いつ着工されるかというのはお聞きしてはおりません。

○蒲生光男委員長 5番、平 進介委員。

○5番 平 進介委員 ありがとうございます。

次に、田沢川についてであります。これについてはフラワー長井線の鉄橋部分の流路断面が極端に狭いということで、融雪期や豪雨出水時には上流からの水量をのみ込めない状況になっているというふうなことであります。また、草岡川との合流地点で逆流し、冠水する状況となっております。市の重要事業要望として早期着工を求めているわけではありますが、これも県というふうなことでありますけれども、その進捗状況等について建設課長におわかりであればお聞きしたいというふうに思います。

○蒲生光男委員長 青木邦博建設課長。

○青木邦博建設課長 田沢川の河川改修工事につきましては、委員おっしゃられるとおり、市の重要要望事業として早期着工を要望しているところでございます。県でも昨年の豪雨災害時に

において草岡川との合流部で田沢川の水量がのみ込めず、バックウォーター等も発生しまして耕作地に越流、湛水したことを受けて、まずは樋門整備の検討と現地調査を始めているところでございます。流路部分につきましても、最下流の樋門の構造にあわせて順次検討をしていくという予定であるとお聞きしております。以上です。

○蒲生光男委員長 5番、平 進介委員。

○5番 平 進介委員 ありがとうございます。

準備段階に入ったというふうなことで大変ありがたいというふうに思います。

さて、次に移りますが、災害対策本部を設置した常総市役所庁舎であります。これをちょっとネット等で見ますと、さきの東日本大震災で被災した旧庁舎を解体して昨年11月に完成したばかりというふうなことのようであります。これもマスコミ情報等であるわけですが、市の担当者については耐震機能は意識したが、浸水を想定したかさ上げの議論はなかったと悔やむというふうなことで、庁舎駐車場では自衛隊車両も多くが冠水し、走行不能になったというこのようであります。

ここで質問に参りますが、長井市における地域防災計画では、災害対策本部の設置場所として市役所本庁舎3階の第1委員会室としております。本庁舎が被災し、建物損壊等によって使用不能となった場合の候補として、次に長井小学校の体育館、その次に生涯学習プラザ、その次に西置賜行政組合消防本部としております。

今、本庁舎の整備計画について、さきの6月定例会での小関委員への答弁では、検討委員会を立ち上げて今年度中にも方向性を出したいということでありました。このたびの災害を教訓として、災害対策本部の場所を再度検討する必要はないのか。将来的な市庁舎の建設構想等も含めて市長にお聞きしたいというふうに思います。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 平委員おっしゃるように、地震、耐震ばかり気をとられて肝心の、特に長井の場合ですと集中豪雨等々による水害の被害というのは、過去何度かあったわけでありまして、そこもしっかりと検討しなきゃいけないと思ってます。耐震化につきましては、この本庁舎、現在の本庁舎、昨年度耐震度の強化の工事はさせていただいてI s値は0.6は確保いたしましたけれども、災害本部となるには0.9以上が望ましいということで、そういった意味では耐震上も果たしてこの庁舎を使っていいのかということがございます。

委員からありましたように、今年度中に、いつまでもこのままずるずるしてもしようがないということで、この本庁舎を生かして第2庁舎をこの近くにつくるか、もしくは新たなところを場所を移転して新築するか、この二つに一つしかないというふうに思ってますが、ここを生かした場合の課題は、ハザードマップではここは水没する地域なんですね。したがって、そこに新築はしないわけですけども、当面20年か30年ぐらいはそれを使うと、第2庁舎を含めて、それでいいのかというのがおっしゃるとおり大変な課題だと思っておりますので、ここらについても十分検討しながら、よりよい方向性を今年度中に、まず私どもの案として定めてまいって、その後、当然議会、場所を移転するとなると議会の了承を得ないといけないと。これが一番大変だというふうにいわれておりますので、そういったことも含めていろいろご指導いただきたいと思えます。

○蒲生光男委員長 5番、平 進介委員。

○5番 平 進介委員 費用のかかる話ですから、なかなか難しいところはあるというふうに思います。

6月の定例会のときには庁内の検討委員会でもまず場所、3つの方法ぐらい検討して、そして

市民、有識者による整備検討委員会を立ち上げて、今年度中あたりに方向性を示したいというような話かなというふうにちょっと思ったんで、その辺もう一度確認させていただいてよろしいでしょうか。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ちょっと私のほうで言葉足らずのところもあったと思いますので、この件は庁内の検討委員長である副市長のほうからお答えさせていただきます。

○蒲生光男委員長 遠藤健司副市長。

○遠藤健司副市長 私のほうから、庁舎の建設、また市全体の公共施設の整備検討委員会の検討状況を申し上げます。

今、今年度1回開催したのは長井市の公共施設の全体の整備検討委員会を庁内でやっております。また、今月もう一回やります。その中には当然庁舎のあり方が一番重要なポイントになると思います。また加えて、先ほど委員おっしゃったような財源の問題、そして市長が申し上げた災害対策、ハザードマップ、そして震災への対応というのがあると思います。

私、決算委員会を欠席させていただきました、結城市のほうにお見舞いに行っていました。その際のお話ですと、常総市、今ご紹介があったように、新設をしたと。ただ、そのそばを流れる小河川に鬼怒川からの逆流を防ぐために水門を閉めた。その結果、内水が庁舎の駐車場等に集中してきてあのような状況になったというふうなことでございます。

長井も次の庁舎の場所を建てる場合には、この場所も当然ですし、また新たな場所も当然ですし、その辺を取りまとめながら市民の検討委員会、そして庁内の検討委員会を重ねながら、議会の皆様にもその都度の検討状況をお知らせしたいというふうに思います。

○蒲生光男委員長 5番、平 進介委員。

○5番 平 進介委員 よろしく願いいたします。

す。

次にですが、昨年11月からコミュニティーFMおらんだラジオが開局いたしました。潤いのある市民生活とともに、災害時には最も有効な情報提供のツールとして大いに期待いたしたいと思います。長井市防災ラジオは災害等発生時に緊急情報として、自動的にラジオの電源が入り、最大音量で流れる機能とお聞きしております。

ここで総務課長にお聞きをいたしますが、今月9日の午後に防災ラジオから自動的に緊急情報が流れたというふうなことでありますが、その放送内容等についてお聞きをしたいというふうに思います。

○蒲生光男委員長 齋藤環樹総務課長。

○齋藤環樹総務課長 委員お尋ねの件ですが、9月9日水曜日の正午ごろですけれども、エフエムおらんだラジオで放送の内容としましては、土砂災害警戒情報が発令という旨の放送が流れたということで、当時県内では土砂災害警戒情報が発令されていたのは米沢市だけという状況でしたが、このときはおらんだラジオでNCV米沢の番組を放送している時間帯だったということで、NCV米沢の緊急割り込みシステムがJ-ALERTの緊急情報と連動し、自動的に放送し、あわせて米沢市防災ラジオあるそうですけれども、その自動起動信号も発信されたということでございまして、なおかつ、米沢市の防災ラジオの自動起動信号が長井市の防災ラジオと同一のものであったということで、市内の防災ラジオも起動したというような結果だったということでございまして、1日数時間のNCVの放送番組時に起こったケースではございますけれども、こういった放送は全く混乱のもとになるということで、現在、緊急割り込み装置を整備していただいた業者を通じまして、JANあるいはNCV米沢とこうした紛らわしい放送を防ぐ対策について検討しているところ

でございます。

○蒲生光男委員長 5番、平 進介委員。

○5番 平 進介委員 わかりました。今、整備に向けているということ。

次に、防災ラジオの緊急放送として自動的に入るのは気象の部分でいうと、大雨、暴風等の特別警報のときというふうになっておりますが、この特別警報については数十年に1度と予想される場合の警報だというふうに思いますが、もう少し情報提供の幅を広げることも必要でないのかなというふうに思います。

この特別警報以外では、今ありました土砂災害警報、これは警報の中に入っているようですが、これについては自動的に流れるというふうなことでありますが、もう少し警報等の必要性はないのかなというふうに思ったところがあります。

また、例えば今回流れた土砂災害警報が流れた後に、あわせてどの地域で発生したのかなど、具体的な情報提供がないと市民の方は混乱するのではないかなというふうに思うんですが、その辺のところについて総務課長にお聞きをいたします。

○蒲生光男委員長 齋藤環樹総務課長。

○齋藤環樹総務課長 その件に関しては、これまで説明が若干不足していたのかなということでございます。詳しく申し上げますと、現在、市の防災ラジオが自動起動する要件としているのは6つの場合がございます。1つは長井市の避難勧告など避難に関する情報、2つは緊急地震情報、3つ目が気象、大雨、暴風等の特別警報、それから4つ目は国民保護に関する情報、これは武力攻撃あるいはミサイルが飛来してくるというような事態、それから5つ目は長井市に土砂災害警戒情報が発表されたとき、最後6つ目ですけれども、その他、市民への周知が必要な緊急情報や試験放送等としております。

このうち1番目の避難に関する情報と最後の市民周知が必要な緊急情報や試験放送等につき

ましては、現在、市役所総務課の向かいのマイク卓からの放送、生声での放送ということになります。それ以外につきましては、国のJ-A L E R Tと連動しての自動放送、機械音声での放送ということございまして、現在のところ、防災ラジオが自動起動するものは緊急に周知が必要な状況ということで要件を定めているところ。

例えば大雨警報も大変重要な情報なんですけれども、発表時点ですぐに被害等が発生しているということは、可能性としては低いわけ、なおかつ、一般のラジオ、テレビ等の通常のメディアでも盛んに放送されると。こうした段階でも自動起動させることということになりますと、かなり頻繁に自動起動することになるということになります。大雨の警報等につきましては、通常のおらんだラジオの放送で具体的かつ小まめな周知放送をお願いしているところ。

全体的なことですけれども、防災ラジオの運用につきましては、これから市内外の災害の発生事例、その対応ケース等を参考にしながら、具体的な情報提供のあり方も含めまして、より有効な活用が図られるよう引き続き検討を進めさせていただきたいと考えております。

○蒲生光男委員長 5番、平 進介委員。

○5番 平 進介委員 ありがとうございます。具体的なもう少し詳しいところについては、これから詰めていかれるということですのでよろしくお願ひします。

次にですが、今、総務課長からありましたとおり、おらんだラジオの通常の放送中であっても災害等が発生すれば市役所の総務課から、総務課にある放送設備からの割り込み放送ができるという仕組みになっているということですが、災害対策本部自体の被災等も考慮して複数箇所から情報提供ができるようにしたほうがいいのではないかなというふうに思います。

例えば西置賜消防本部の通信指令室からも出

せるようにしたほうがいいのではないかと
いうふうには思うんですが、相手もいるこ
とでありますし、またこれも経費のかかる話で
ありますけども、その辺の見解について市長に
お聞きしたいというふうに思います。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 緊急割り込み放送を市役所だけ
でなくてほかのところでも複数箇所できるとい
うことは必要なことかもしれませんが、それを
判断するのは災害本部、緊急の、地震の自動的
に入るもの以外は、やはり対策本部で判断する
わけですから、対策本部が例えば市に置けなく
なると、消防に置かざるを得なくなったって
いうことであれば消防で必要だと思うんですね。
したがって、消防の職員が自分の判断でそれを
することはできませんので、結局あくまでも災
害対策本部の判断で緊急の割り込み放送をする
わけでありますので、まずは市役所。ただ、経
費はかかるかもしれませんが、複数箇所、消防
本部であったり、あるいはその後、警察と消防
と3者で連携している置賜生涯学習プラザとか、
そういったところに整備することも必要となっ
てくるというふうに思います。

○蒲生光男委員長 5番、平 進介委員。

○5番 平 進介委員 当然災対本部で決定、判
断するわけですから、そこにあればいいわけ
ですけども、そうした災害を考えれば複数あれば
いいのかなというふうにちょっと思ったところ
でございます。ありがとうございます。いろ
いろお話し申し上げましたが、ご検討をよろし
くお願いしたいというふうに思います。

次に、3番の観光面からの古代の丘魅力アッ
プについてお聞きをしたいというふうに思いま
す。

これについて早速ですが、近年の観光客の推
移について、古代の丘資料館入館者数の推移に
ついて、文化生涯学習課長にお聞きをいたしま
す。

○蒲生光男委員長 齋藤理喜夫文化生涯学習課長。

○齋藤理喜夫文化生涯学習課長 お答えいたしま
す。

平成22年度、古代の丘資料館の入館者数が
4,077人、23年度が3,887人、24年度が4,376人、
平成25年度が5,585人、平成26年度が5,732人と
なっております。

○蒲生光男委員長 5番、平 進介委員。

○5番 平 進介委員 22年度からの入館者数の
推移であります、かなりふえてると。22年度
から比較すれば40%、4,077人が22年度で、26
年度が5,732人と4割増加しているというふうな
ことでありますが、教育委員会としてこの訪れ
た方が多くなった要因をどのように捉えておら
れるのか、文化生涯学習課長にお聞きをいたし
ます。

○蒲生光男委員長 齋藤理喜夫文化生涯学習課長。

○齋藤理喜夫文化生涯学習課長 お答えいたしま
す。

特に平成25年度からの入館者数がふえている
というふうな状況がございます。この点に着目
いたしますと、この平成25年度、県内で唯一、
国内的にも珍しい4本柱の復元事業が行われた
というふうなこと、それから「ぼくらの文楽」
や西根ナーレといった事業を通しまして、県内
外からの誘客があったものというふうに思いま
す。

また、秋の時期だけでなく、通年の状況で
過去よりもふえているというふうな状況が見ら
れます。これにつきましては、市外の児童、あ
るいは幼児施設の団体の研修の場として利用さ
れているというふうな状況もございます。これ
らにつきましては、古代の丘の全体の環境が子
供たちにとって素晴らしいというふうなことで
お認めをいただいたと、そういったふうな結果
であろうというふうに思っております。

○蒲生光男委員長 5番、平 進介委員。

○5番 平 進介委員 ありがとうございます。

特に25年度から急激にといいますか、かなり右肩上がりで一気に上がってきたという感じであります。半裁木柱、「ぼくらの文楽」、西根ナーレ、そして市外の幼稚園児、小学校の低学年も含めてだというふうに思いますが、そういった団体でおいでになる方が多くなったというふうなところで、大変ありがたいなというふうに思っております。

観光交流としてより多くの方においでいただくためには、まず当然イベントの開催はあるというふうに思いますが、行ってみたい、また行きたいと思うという、ほかにない魅力の存在というものも大きいというふうに思います。また、通年通してきれいなトイレと環境整備、こうしたものなども底辺の部分にはあるんだというふうに思っております。その環境整備の部分では地元の人たちも頑張っておられます。特に長者屋敷遺跡保存会や古代の丘運営協議会、この団体につきましては、市の委託を受けながらではありますが、草刈り、雪囲い、ごみ拾いなど、幅広い活動を行っておられるということで、そうしたところに現在の来訪者の増も大きな要因としてあるんだというふうに思っております。

ただ、広大な面積の中、自然が相手というふうなこともありまして、グラウンドゴルフなどを楽しむ方もおられるわけですが、そうした方が楽しむときに草刈りの回数をもっとふやしてもらいたいというふうな要望などもあるというふうにお聞きをしております。こうした自然と縄文時代の文化を盛り込み、調和した整備を図っている古代の丘、これをさらに魅力を高めてより多くの観光客を誘客するための方策として、まず大型観光バスも乗り入れできる体制を整えることが必要だというふうに思っております。本定例会に長者屋敷2号線の補正予算が計上されておりますので、建設課長にこの周辺道路の整備計画としての長者屋敷2号線の整備状況について、工事の予定期間なども

含めてお聞きをいたします。

○蒲生光男委員長 青木邦博建設課長。

○青木邦博建設課長 長者屋敷2号線につきましては、4本柱の遺跡発掘等により平成11年より休止していた路線でございます。平成26年度に路線測量に入り、今年度、遺跡を避けるルートで地権者の了解を得ているところでございます。なお、詳細設計については今月の末に地元説明会を開催する予定でございますが、工事延長につきましては195メートル、道路幅員が全幅で8.5メートル、大型バスも十分通れる道路構成となっております。用地買収が済み次第、来年度以降着工というふうな考え方をしております。以上です。

○蒲生光男委員長 5番、平 進介委員。

○5番 平 進介委員 ありがとうございます。長年の懸案というふうなところもあったわけですが、長者屋敷2号線の整備によりまして、西根小学校の南側から上って古代の丘を回ってその後、草岡の大明神桜を回るという、この反対回りもあるわけですが、という周回コースを整備して、大型観光バスが運行でき、交通渋滞を招かない方策をとるという必要があるというふうに思いますが、この辺のところ。

それからその場合に古代の丘資料館から大明神桜に下がってくるまでの間の2カ所のカーブの隅切りなどについても必要になってくるというふうに思いますが、少し先の話で恐縮ですが、市長にお聞きをしたいというふうに思います。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 平成11年でストップしていた今回の長者屋敷線をなぜ再開したかということでございますけれども、まず地元の保存会の皆様が生懸命さまざまな取り組みをなさっていると。特に4本柱の復元では大変なお力添えをいただきました。私は、平委員は観光という言葉を使っていらっしゃるんですが、私は観光だと思っ

てないんですね。あそこは学び、体験の場だということで、ただし、一旦計画をして大型バスが入れるようにしたものをストップさせているっていうのは、用地買収もさせていただいてるわけですから、これは地元も頑張っていってやるんで応えなきゃいけないということで、今回はまずは通させてもらったと。

ちょっと長くなって恐縮ですが、例えば子供の、ゆったり半日ぐらい家族連れで過ごすには非常にいい場所なんですね。ただ、観光としてはいいんですね。お金を使わないでのんびりと地元の人とかがいろんなことを学んだり見たりゆったりできるところっていう交流の場だと思ってるんですね。したがって、さらに大明神桜っていうのは確かにこれ国の天然記念物、長井市の2つのうちの1つですから、重要な要素なんですけども、ちょっと期間が短いということで、今回は駐車場を昨年度舗装とか整備はさせていただきましたが、地元からトイレとかあといろいろ道路を拡幅してほしいというご要望あるんですが、これらについてはもう少しいろんな要素を加えてからのほうがいいんじゃないかと。その新たな要素をつくるころにお金をかけるのがまず先だろうと。

したがって、例えばこの近くですと、一般質問でもあったんですが、Asahi自然観とか、ああいうふうに自然体験をしたり、あとバンガローで宿泊研修したりとか、縄文の場合は縄文の体験ができる、そういうバンガローなんですね。ですから、ちょっとコンセプトが違うんですね。したがって、今後、観光化するんだとすればもう少し新たな要素をつくっていく必要があるんじゃないかと。それは例えば草岡ハムがちょうど地元あるわけなんですけども、草岡ハムの、もしかして第2工場をつくるっていうことであれば、じゃあ、あの近くにつくってハムとかウインナーを体験できる、つくることを体験できるとか、それに小動物飼ったり、あと酪

農できるかどうかですけども、それに例えば乗馬もできるとか、そういう観光牧場的なものを、あれだけ広くて、しかも今はほとんど使われていない、残念ながら、大規模農道があるわけですね。あれがもったいないなど。あれを生かすにはそういったものを、長井市で唯一広大な丘陵地帯ですから、あそこを活用するということでの構想がまとまれば、やっぱり道路もきちっとしなきゃいけないと。ただし、今の状況で膨大なお金をかけてするのは難しいのかなというふうに思っておりますので、ぜひその辺一体となっているいろいろご提言をいただきながら、あるいは地元の皆様と話し合いをしながら、今後の古代の丘の整備を道路も含めて考えるべきだと思っております。

○蒲生光男委員長 5番、平 進介委員。

○5番 平 進介委員 ありがとうございます。

学習の場、体験の場、学びの場というふうなお話で、確かにそうした面も当然あるというふうに思いますが、人に来ていただくというふうなところも大事だというふうに思いますし、こちらにおいてになる方の一緒に古代の丘に向かうと、行ってもらうというふうなところでは、観光交流というふうなところもあんなかなというふうに私はちょっと思ったところであります。

古代の丘の最大の魅力の一つである15体の土偶群像がありますけれども、これについて話によりますと、古代の丘を整備するときに長者屋敷遺跡発掘の中心とされました佐藤正四郎先生たちが土偶の話になったときに、1体でなく複数体の土偶の群像を整備してはというアイデアから生まれたというふうにお聞きをしております。当時の予算審議に当たっては、古代の人が祭祀や呪術などに使われた土偶を設置することはどうかというふうな意見などもあったというふうに聞いておりますが、縄文時代は土偶の文化が盛んな時代であり、その時代の盛んな特徴的なものとして縄文時代の文化を表現すると

して、15体の土偶が整備されたというふうなお話だというふうに聞いております。特に土偶は東日本を中心にその数約2万體というふうに聞いております。現在の土偶15体のうち、県内からは、以前県内の土偶ないというふうにちょっと書いておりましたが、県内から真室川町と遊佐町から出土した2体が今、古代の丘に整備されているというふうなことのようであります。

土偶の国宝の指定は、古代の丘が整備されたところには1体もなかったんですが、それが長野県茅野市で発掘された縄文のビーナス、ちょっとちっちゃくて恐縮ですが、こんなすごい。これが平成7年に国宝に指定されまして、その後、中空土偶、これが函館から発掘されたやつなんです。これが平成19年。それから合掌土偶、これが青森県の八戸から出たやつ、これが平成21年に国宝指定です。「はじめての土偶」という本あるわけですが、これが山形県の舟形町から平成4年に出土されまして、平成24年度に国指定になったものであります。これが4つ目。そして最後、仮面の女神っていう太い足をした三角形の仮面かぶってるんですが、これが長野県茅野市で昨年国指定ということで、国指定は5つしかありません。

訪れた方については、まず古代の丘においでになったときに土偶の数に驚いて、そしてその大きさ、表情、形に圧倒されるというふうなことでありますし、幼児の方や小学校の低学年の方については土偶そのものに上って親しむというふうなこともしておるようでありますし、その来られた子供がやがて大きくなって子供ができたときに、あの強烈なインパクトのある古代の丘に行って、もう一回じゃあ、一緒に上らせて、土偶に触れさせてみっかというふうな、そういったところなども考えられるのかなというふうなちょっと思ったところであります。

そうしたことも含めて、ぜひこの国宝5体について古代の丘に整備をして、縄文時代の文化、

それを学ぶ学習の場をさらに広げるというふうなこととともに、古代の丘の魅力アップにつながるというふうに思うわけですが、教育長からは教育的なそういった立場からの見解をお聞きしたいというふうに思います。

○蒲生光男委員長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 ありがとうございます。私もこの質問をいただいて、改めて古代の丘を見せていただいて土偶広場にも行ってまいりました。本当にそういう目で見ていると、あの一帯が本当にすばらしい古代の丘だなというふうに感じたところでもあります。長者屋敷遺跡のエリアについては、春分の日と間もなく秋分の日が近づいておりますが、日の出、日の入りがちょうど4本柱で示される、そういうものなわけですが、それと同じ役割を持つストーンサークルが実は古代の丘の土偶広場の左奥のほうにあるんですね。そういうものがあって、そして子供たちが今、平委員がおっしゃられたように、土偶広場で楽しんでいるという、そういう配置になっているということでございます。自然の起伏を生かしながらストーリー性を持った、そして家族の憩いの場として整備されているという点がすばらしいなというふうに感じたところでもあります。

改めていろいろ調べてみますと、土偶広場について訪れた方の感想などがホームページのほうに寄せられておりました。紹介させていただきます。星の広場、水の広場など、さまざまな広場が存在しますが、中でも土偶広場は3メートルから0.6メートルまでの大きささまざまなレプリカ土偶が丘に点在している本当にすばらしい広場です。何がすばらしいかというと、一つには土偶の選定基準、二つには土偶のできのよさ、三つには配置のよさが上げられます。一体誰が制作する土偶を選定し、誰がつくられたのでしょうか。原寸からすると余りにも巨大であるにもかかわらず、レプリカは精巧につくられ

ています。また、福島県荒小路遺跡のハート型土偶を斜めに設置する案などは、誰が出されたのでしょうか。それぞれの土偶はみずからがその場所を決定したかのように配されています。とにかくすばらしいです。この中に縄文のビーナスが含まれていないところもグッドです。こんなところでございました。大変申しわけありません。

確かに舟形町出身の縄文のこちらは女神を追加すれば本当に魅力がアップするというご意見をお持ちの方も多のかなというふうにも思います。ただ、このような感想をお持ちの方もいるわけでございますし、今の配置でありますとかたまたまい、雰囲気、これが本当にすばらしいなと私は思っております。

あと例えば国宝5体を加えたとなると、長井市とのつながりってどういうストーリーを描けるのかなというあたりがちょっと難しいかなという、そんなことをちょっと感じているところであります。私はソフト面の充実でさらに学びの広がりとか深まり、そして訪れる人々の拡大にもつながるのかなというふうに思っております。

○蒲生光男委員長 5番、平 進介委員。

○5番 平 進介委員 ありがとうございます。

それでは、市長にもさっき観光の面からっていうふうなところでなく、学び、体験の場、交流の場、そういった点も含めまして見解をお聞きしたいと思います。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 自分の体験として20年ぐらい前になるんですけども、箱根の彫刻の森ってあるじゃないですか。家族で行ったことあるんですけども、非常に楽しめました。私は平委員からこのご提言をいただいたときに、今はどちらかというところと狭いところにごちよごちよごちよってあるんですけども、うまく配置して、ところどころに休憩所とかカフェとか、あるいはちよ

と甘いものを食べられるところとかあれば、全体を縄文のそういったテーマとしてはそういった国宝も含めたものを全体楽しめるようなエリアにするということであれば、国宝のものをレプリカつくれるかっていう非常に現実的なことはあるんですが、しっかりと縄文をテーマとして全国に広げていきたいんだということをアピールすれば、もしかしたらレプリカつくるのをオーケーさせてもらえるかもしれませんが、そういったものが全国的にないので、1カ所に集めるんじゃないかと、うまく配置して、前回のようにセンスのある配置の仕方できるかどうかわかりませんが、そういった考え方というのは非常におもしろいなと思ったところでありまして、ぜひこれらどういうふうにして整備するかも含めて、その整備手法とか、これからぜひ検討すべきご提言だなと思ったところがございます。

○蒲生光男委員長 5番、平 進介委員。

○5番 平 進介委員 ありがとうございます。

今、土偶群像7体と8体、1カ所にそれぞれあるわけですが、今回の国宝5体についてはそれなりの存在感、魅力があるということで、今、市長からありましたとおり、例えば太陽の広場とかバンガロー、ストーンサークル、長者屋敷遺跡のところ、そして古代の丘資料館の脇にこのビーナスなんか置けば、またすばらしいなっていうふうになんか個人的には思ったりもするんですが、そうしたことなど、やっぱりネットで見ても土偶広場っていうふうなところって出てこない。恐らく長井市が唯一無二のところかなというふうに思っております。

発掘された場所も北海道の千歳から滋賀県までからほとんど出てるということで、その距離をすると長井市あたり中心ぐらい。土偶のへその里長井とかっていうふうな、そういうふうなことなどももしかしてあるのかなというふうに思っております。ぜひ遺跡発掘に尽力されまし

た佐藤正四郎先生たちの思いをぜひ引き継いでいきたいなというふうな思いであります。

次にであります。遺跡調査で半裁木柱が発掘されまして4本柱の復元整備がされました。先ほど教育長からありましたとおり、今月の23日も日の出を見る会が行われるというふうなことであります。その場所は長者屋敷遺跡もあるということで、縄文太鼓、縄文まつりについてもここ2年ぐらい前から長者屋敷遺跡の半裁木柱の前あたりで行ってるというふうなことであります。ただ、あそこにはかつて水道もトイレもあったわけでありましたが、財政的なことなどもあったかというふうに思いますけども、今ストップしているというふうな状況でありますので、やっぱり訪れた方にとってトイレ、水、この部分については一番基本的なところだというふうに思いますから、その辺の整備についてご検討、整備をしていただきたいというふうなことと、それからことしも来月、縄文まつり行われるわけでありましたが、トイレの近くの道路に水道管走ってるわけで、そこからトイレに向かって止水栓があるというふうなことであります。臨時的でも上を延ばしてできるというふうなことのようではありますが、その辺のところについて、文化生涯学習課長にお聞きをいたします。

○蒲生光男委員長 齋藤理喜夫文化生涯学習課長。

○齋藤理喜夫文化生涯学習課長 平成25年度の4本柱の復元事業の際から、今の縄文屋敷遺跡のところから縄文太鼓、それから縄文まつりのほうを行うようになったというふうなことで、今、議員がお話をなされた要望があるというふうなことはこの時点からある程度聞いてございます。見積もりを聴取していた状況もございしますが、実際の使用の頻度あるいは緊急性といったふうな観点から、実現に至らなかったというふうな経過がございします。

なお、今回、周辺道路の整備というふうな動きがあるというふうなことで、利用者の増加と

ということも考えられるというふうなことで、それにあわせて水道とトイレのほうの整備も検討をしていきたいというふうに考えてございます。なお、今年度の縄文まつりというふうなことでございますが、その辺につきましては具体的に可能なかどうかというふうな状況については、地元の方と改めて確認をさせていただきたいというふうに思います。

○蒲生光男委員長 5番、平 進介委員。

○5番 平 進介委員 ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。

あと縄文そばの館について体験観光を含めた事業を計画してるというふうなことであります。これについても今現在、縄文そばの館のそば打ちなどについては若い方がされておられるというふうなことで、一番当初の縄文そばの館の運営の部分から少し変わってきているというふうにも思われます。ぜひ冬期間営業できないという厳しい経営の中で、ぜひ若い人の事業展開ができるような、成功できるような部分ということで農林課のほうで今申請されて、間もなく決定なるというふうなお話のようではありますが、よろしくお願ひしたいというふうに思います。

それから長井の観光ポータルサイトの充実についても、今回、観光地域づくりプラットホーム立ち上げになるというふうなことでありますので、そのホームページ等についてもより具体的に詳しく載せていただければというふうなこともお願ひしたいというふうに思います。またあわせて、入り口、玄関等になる標識の充実整備についてもお願ひしたいというふうに思います。

あと時間なくなりましたが、2番の（仮称）長井市観光地域づくりプラットホーム事業等運営費補助につきましては、これは後ほど梅津委員が同様の質疑をされるというふうなことで、私からは特にお譲りをいたしまして、総括質疑を終了させていただきます。大変ありがとうございます。

ございました。

内谷邦彦委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 次に、順位4番、議席番号4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 一般質問にて鈴木富美子議員より生涯プラザ運動公園に関して質問がありました。ほかに疑問点がありましたので、質問させていただきます。

本施設については今後さまざまなイベントが開催され、他地区からの来場者も多くなってくる状況で、現在の運動公園を確認した場合、思い描いた運動公園とはなっていないのが現状と思います。早急に完成形として他地区から来場される皆様にも誇れる運動公園となるよう質問いたしますので、よろしくお願いいたします。

平成27年度長井市一般会計9月補正予算、10款教育費、5項保健体育、2目体育施設費、生涯プラザ運動公園施設管理事業。

2015年6月13、14日に陸上競技場完成イベントを開催し、総事業費約12億円かけた施設の緑地の維持管理について、4月から6月にかけての雨不足による散水の回数がふえたことと5月と7月に豪雨があり、芝広場の赤土が流されたために復旧作業及び土のう設置が新たに必要になり、また予想以上に雑草が伸び始め、雑草をふやさないための機械での草刈りと人力での除草も必要になることから、プラザ運動公園内緑地・インフィールド維持管理業務委託料の増額補正するものとの内容でしたが、芝生広場と陸上競技場内芝生について状況が違っていると思われる。陸上競技場内芝生については張り芝で定着していると思いますが、芝生広場に関しては芝の種子を吹きつけて芝を養生し、定着するはずが定着できず、現在に至っているのではと

思われます。また、4月12日確認した時点では雑草が多く、芝生広場にも芝よりも雑草が目立っております。その後、8月22日確認した時点でも雑草が目立っておりますが、先日確認した時点では草刈りが行われ、雑草に関しては少なくなっております。

植林している樹木に関しても、オオヤマザクラ4本、ケヤキ1本、トチノキ2本、コブシ4本、モミ2本、ナナカマド1本、計14本枯れておりました。ほかにも枯れる可能性がある木もあります。

陸上競技場を除いた運動公園について工事契約はどのようになっているのでしょうか。協議会での補正予算の説明では、芝及び植林された樹木に関して1年間の期限があり、定着できなければ再度芝の植えつけ、植林を行うことなのでしょう。最終引き渡しの条件等ありましたら教えてください。建設参事、よろしくお願いいたします。

○蒲生光男委員長 横山賢一建設参事。

○横山賢一建設参事 お答えいたします。

芝生広場を含む運動公園の工事契約の内容でございますが、工事の概要につきましては、次のとおりでございます。補助事業名、都市公園整備事業、平成21年度から平成26年度、補助率50%。工事名につきましては、生涯学習プラザ運動公園整備工事（第13工区）となっております。入札方法は条件つき一般競争入札で、9社が参加してございます。請負業者は株式会社梅津組、請負金額は最終で1億1,088万3,600円となっております。工期につきましては、平成26年6月12日から平成27年3月31日までとなっております。

工事の概要につきましては、敷地造成工一式、雨水排水設備工452メートル、園路広場工6,910平米、グラウンドコート施設整備工一式、縁石工269メートル、電気設置工9基、サイン設置工3基、植栽工、低木、高木であります。あ